

太平洋レアアース宝庫

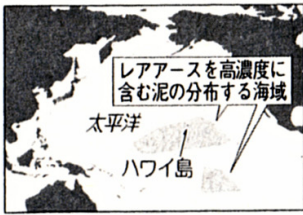
海底の泥 陸埋蔵の800倍

東大チーム調査

ハイテク製品に不可欠なレアアース(希土類)が、太平洋の広い範囲の海底に大量に存在する可能性が高いことを、東京大学の加藤泰浩准教授らの研究チームが突き止めた。最大で陸の埋蔵量の八百倍に上り、高品質という。英科学誌ネイチャー・ジオサイエンス電子版に四日掲載された。

レアアースは世界の年間生産量約十二万トンのうち約97%を中国が占め、価格が高騰している。発見を機に採掘が進めば、レアアースをめぐる資源問題が激変する可能性もありそうだ。

研究チームは、太平洋各地で東大気海洋



研究所がこれまで採取した試料や、日本や欧米が参加する国際深海掘削計画などで採取した約二千の試料について、化学組成を詳細に分析した。

その結果、仏タヒチ島周辺の南東太平洋(二百四十万平方キロメートル)と米ハワイ島周辺の中央太平洋(八百八十万平方キロメートル)の二海域で、高品質のレアアースを含む泥が大量に存在することが判明。

海底火山から噴出した熱水に含まれるセオライトなどが、海水中のレアアース粒子を吸

着し、沈殿したとみられる。南東太平洋の海底から四平方キロメートル

を厚さ十センチ分採掘すると、日本の消費量の一年分が回収可能という。

この泥には資源開発の障害となる放射性元素のウランなどはほとんど含まれない。薄いのでは」と話している。

を洗い出せるという。加藤准教授は「レアアースが存在する海域はほとんどが公海上だが、調査が進めば日本の排他的経済水域(EEZ)でも発見できるのでは」と話している。